

## 地区老人クラブへ 実のある活動支援を



**問** 幕別町高齢者保健福祉ビジョン2006

が本年3月に示された。基本目標に地域社会の創造、基本的な考え方と今後の方策の中で、地域の特性を生かした環境整備、活動支援をおし、高齢者が生きいきと活動する地域づくり、まちづくりが示されている。

我が町も平成18年4月1日現在、総人口にしめる65歳以上の割合が22・2%、5年後には23・6%まで上昇するという推計もあり、急速に高齢化が進む状況にある。

町内の各地域での現状は、このような中でも、老人会活動は地域にとって非常にウエイトの高い活動母体であると考ええる。今、それぞれの老人会では地域や地区とのコミュニケーションを図りながら各種研修会、ボランティア活動、健康作りの一環としてのパークゴルフ等々の活動が実践されて

いると思う。

町としても、こうした現実を踏まえ新たな活動支援、

サポート施策を検討し、実のある老人クラブ活動の支援をする事が重要であると考ええる。

町長の考えを伺う。

**町長**

老人クラブに対する経済的な支援として、会員一人当たり2,000円の補助金に加え、事務局経費などを合計すると年間750万円の助成を行い、各単位クラブの視察研修旅行等に対し、年間2回の限度で、福祉バスを利用できるなど活動支援に努めているが、今後の活動支援等については、従来の行政側からの提案による一方的な支援ではなく、高齢者が持っている知識と能力を持ち寄って自主的な活動をさらに推進するために、単位老人クラブあるいは老人クラブ連合会が自ら考え、自ら求め、

そして要望されるものについて、協議し支援を行い、道内、道外における老人ク

## 町の歴史文化の伝承のため 歴史館の分散する施設の集約を

**問** ふるさと館も昭和54年10月に開館して以

来、町の歴史資料を保存、展示する施設として大きな役割と意義をもって今日に至っているものと思う。また、この間、イトウ飼育、

ふるさと館ジュニアスクーを開設して子供たちに体験学習をおして地域の生活文化に対する理解を深める活動等、大変大きな役割を担っていると思う。

また、蝦夷文化考古館についても、町の歴史文化を伝承していく大きな役割をもった施設だと考えている。

今の分散している施設を一つに集約して活用するのが望ましいと思うし、幕別の歴史館としての機能が充実し、来館者にとっても時代を担う子供たちにとっても有意義な学習の場となると考える。

教育長の考えを伺う。

クラブ活動の先進事例の紹介など、情報提供に努めたい。

**教育長**

施設の集約化もひとつの方法であるが、忠類村と合併した本町の地域性も考慮すると、こうした施設の分散配置も地域の活性化の一助と考える。

新しい施設へ一つに集約する、現施設の改築にしても多額な費用が必要となり、現段階でできることは、新設・改築・移転など将来幾つかの選択肢を想定し、財政的課題のみでなく、生涯学習の拠点施設の位置付けなど、様々な角度から検討することであり、今の時点からしつかり計画づくりを進めたい。



考古館の展示の様子